

## eWEScom・ePlus運用に伴うデータクリーニング

北明システム株式会社  
2007年6月11日 第4版  
2004年2月25日 初版

通信ソフトウェア「eWEScom」及び業務EDIソフトウェア「ePlus」、「TEMPLATE」を運用すると、以下に示すログやバックアップデータが日々蓄積され、いずれディスクドライブやデータベースの容量制限を越え、それ以上はデータを登録できなくなり運用ができなくなります。

また、容量制限を越えなくても、1フォルダの中に大量の数のファイルが登録されると、WindowsOSのオーバーヘッドにより処理速度に問題が出たり、エクスプローラ等で開くことができなくなってしまいます。

### そこで一定期間毎に以下の方法でデータの削除を行う運用を行ってください。

#### 1) 「eWEScom」を運用すると蓄積されるログやデータ

##### 実行ログ

内容	「eWEScom」の後続バッチや通信の中で記録されるログデータが実行の度に蓄積されます
場所	C:\eWEScom\temp\log
限度	ドライブ容量の限度、もしくはWindowsOSの処理能力の範囲(注1)
処置	不要と思われる古いログを手作業、もしくは定期削除モジュール「EWC0090」にて削除する
間隔	1ヶ月に一回、間近の1ヶ月を経過したものは消去する
備考	「EWC0090」の使用方法については「eWEScomリファレンスマニュアル」を参照してください

(注1)WindowsOSでは蓄積されるフォルダやファイルの個数が多くなると処理速度が低下します  
又、大量なファイルが登録されているフォルダをエクスプローラ等で開くことができなくなります。

##### 送受信データバックアップ

内容	「eWEScom」の送受信で受け渡した送受信データがバックアップで蓄積されます(注2)
場所	C:\eWEScom\temp\bak\yyyyymm(注3)
限度	ドライブ容量の限度、もしくはWindowsOSの処理能力の範囲(注1)
処置	不要と思われる古いバックアップデータを手作業で削除する
間隔	6ヶ月に一回、間近の2ヶ月間程度を残して対象期間をフォルダごと削除する
備考	

(注1)WindowsOSでは蓄積されるフォルダやファイルの個数が多くなると処理速度が低下します  
又、大量なファイルが登録されているフォルダをエクスプローラ等で開くことができなくなります。

(注2)バックアップは後続バッチにバックアップモジュール(EWC0250)の実行を記述した場合にとられる。

「EWC0250」の使用方法については「eWEScomリファレンスマニュアル」を参照してください。

(注3)バックアップは年月のフォルダが自動的に作成され、対象期間のデータが中に格納される。

##### biwareデータバックアップ

内容	「biware」によりJCA、全銀TCP手順で受け渡したバックアップデータが蓄積されます(注4)
場所	C:\eWEScom\temp\sav(注3)
限度	ドライブ容量の限度、もしくはWindowsOSの処理能力の範囲(注1)
処置	不要と思われる古いログを手作業、もしくは定期削除モジュール「EWC0090」にて削除する
間隔	1ヶ月に一回、間近の1ヶ月を経過したものは消去する
備考	

(注4)ewc.iniでfile\_savesw = 1の設定をした場合に有効となります。

2) 「ePlus for ARCS」を運用すると蓄積されるログやデータ

蓄積される業務データ

内容	請求データを作成する為に蓄積された請求明細データ、納品確定データの送信毎に追加蓄積
場所	データベース(MSDE)
限度	データベースの総量で2GB
処置	「請求業務メニュー」の「請求明細の消込・削除」で不要な期間を指定して明細を削除する
間隔	12ヶ月に一回、間近の6ヶ月を経過したものは消去する
備考	

3) 「ePlus for Homac」を運用すると蓄積されるログやデータ

実行ログ

内容	テンプレートやマスタ保守を実行する毎に記録される実行結果ログ
場所	C:\¥HM¥LOG¥yyyy¥yyyymm¥yyyymmdd(注5)(注6)
限度	ドライブ容量の限度、もしくはWindowsOSの処理能力の範囲(注1)
処置	不要と思われる古いログデータを手作業で削除する
間隔	6ヶ月に一回、間近の2ヶ月間程度を残して対象期間をフォルダごと削除する
備考	

(注1)WindowsOSでは蓄積されるフォルダやファイルの個数が多くなると処理速度が低下します  
又、大量なファイルが登録されているフォルダをエクスプローラ等で開くことができなくなります。

(注5)ログが格納されるフォルダは、実行した年月日により自動的に作成される。

(注6)フォルダ名はシステムが改版されると変更になる場合があります。 例)¥HM ¥HM2

蓄積される業務データ

内容	業務を行う毎に蓄積される各種データ(納品予定・納品確定・請求・受領・支払)
場所	データベース(MSDE)
限度	データベースの総量で2GB
処置	「データ復旧メニュー」から各種データの削除機能により不要期間を指定して削除する
間隔	12ヶ月に一回、間近の6ヶ月を経過したものは消去する
備考	

4) 「TEMPLATE for Homac」を運用すると蓄積されるログやデータ

実行ログ

内容	テンプレートやマスタ保守を実行する毎に記録される実行結果ログ
場所	C:\¥HM¥LOG¥yyyy¥yyyymm¥yyyymmdd(注5)(注6)
限度	ドライブ容量の限度、もしくはWindowsOSの処理能力の範囲(注1)
処置	不要と思われる古いログデータを手作業で削除する
間隔	6ヶ月に一回、間近の2ヶ月間程度を残して対象期間をフォルダごと削除する
備考	

(注1)WindowsOSでは蓄積されるフォルダやファイルの個数が多くなると処理速度が低下します  
又、大量なファイルが登録されているフォルダをエクスプローラ等で開くことができなくなります。

(注5)ログが格納されるフォルダは、実行した年月日により自動的に作成される。

(注6)フォルダ名はシステムが改版されると変更になる場合があります。 例)¥HM ¥HM2